東証グロース
4571

NEW

事業計画及び成長可能性に関する事項

NANOホールディングス株式会社

2026年6月30日（火）

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

会社概要

設立	1996年6月14日
上場市場	東京証券取引所 グロース市場　(2008年3月5日 東証マザーズ上場)
所在地	本社　　東京都港区
子会社	NANO MRNA株式会社
	Nano Bridge Investment株式会社
	NANO MEDIA株式会社
	Nano Holdings US, LLC.
資本金	1,053 百万円　　(2026年5月31日現在)
発行済株式総数	83,221,758 株　(2026年5月31日現在)
役職員	33名　　(2026年5月31日現在)

<役員>

代表取締役会長兼社長CEO	松 村 淳
取締役CIO	飯 野 智
取締役CGO	富 所 伸 広
取締役CFO/CAO/COO	松 尾 隆
取締役CTO	秋 永 士 朗
取締役CNO	中 冨 一 郎

取締役(社外)	黒 圖 肇
取締役(社外)	江 尻 隆

常勤監査役(社外)	和 田 成一郎
監査役(社外)	坂 本 二 朗
監査役(社外)	清 水 琢 麿

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

組織概要

2026年4月1日、ヘルスケア・バイオ領域へ投資する持株会社体制へ移行しました。

NANOホールディングス株式会社

- NANO MRNA
  - 世界最先端の
    創薬プラットフォーム
  - PrimRNA for a brighter tomorrow
  - Luna RD co., ltd.
- NBI Nano Bridge Investment
  - 日本の優れた技術を持つ
    企業の価値を世界へつなぐ
- NANO HOLDINGS US
  - 日本発の技術と
    世界の資本をつなぐ
- NANOMEDIA
  - 企業価値を高める
    コンテンツ発信

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

NANOホールディングスについて

日本の技術と世界の資本をつなぎ、世界で戦える企業を創出する投資プラットフォーム企業です

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

創薬事業から投資事業を中核とする持株会社体制へ移行

2025年10月より投資事業への転換を開始し、2026年4月に持株会社体制へ移行しました。

投資事業への転換開始

2025.10~2025.12

10/8　SBIとの提携を発表
12/11　投資事業へ転換
役員体制変更

商号変更
NANOホールディングス株式会社

投資子会社設立
Nano Bridge Investment株式会社

投資実行/海外展開体制を整備

2026.1~2026.3

1/6　適格機関投資家登録
2/2　ファンド設立

2/17　米国ネットワーク強化
Nano Holdings US
Chairman　Neil W. Gibson
President　Rocky H. Kato

3/13　中国ネットワーク構築
(Norwich Capital 提携)

4/1 HD体制スタート 案件創出実装フェーズ

2026.4~

4/1　分割子会社化
NANO MRNA株式会社

4/10　AI活用による
カーブアウト投資戦略強化
(BIRD INITIATIVE 提携)

4/24 戦略子会社の
プラットフォーム強化
(LNP技術　Luna RD買収)

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

日本のヘルスケア・バイオ企業への投資環境

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

構造変化が拓く日本市場の好機

市場構造の転換が起こると分析されており、海外からも日本市場に注目が集まり始めています

経済パラダイムシフト
新自由主義の終焉により、小さな政府から大きな政府への転換が進んでいます。

地政学的役割の拡大
米中対立やサプライチェーン再編で、日本の地政学的役割に相対的な競争力が期待されています。

投資機会と成長期待
構造変化は長期成長の好機であり、日本市場への注目が高まっています。

海外機関投資家の注目
ブラックストーン、KKR、ベイン、バークシャーなどの世界的な機関投資家が日本市場への投資を強化しています。

日本企業のグローバリゼーション化が加速
トランプリクエスト/アメリカに対する80兆円投資の日本企業への還流

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

日本企業は世界と比較して割安

日本企業の評価ギャップを背景に海外投資・M&Aの機会が拡大しています。

01

日本企業の評価ギャップ

- 日本には世界水準の技術力を持つ企業が多数存在
- 米国・グローバル市場と比較して企業価値が低く評価される傾向
- 技術力と市場評価の間に大きなバリュエーションギャップが存在

02

海外投資家の関心の高まり

- 米国を中心とした海外投資家が「日本の割安な優良資産」を求めており日本市場に注目
- 日本企業へのM&Aや投資案件が増加

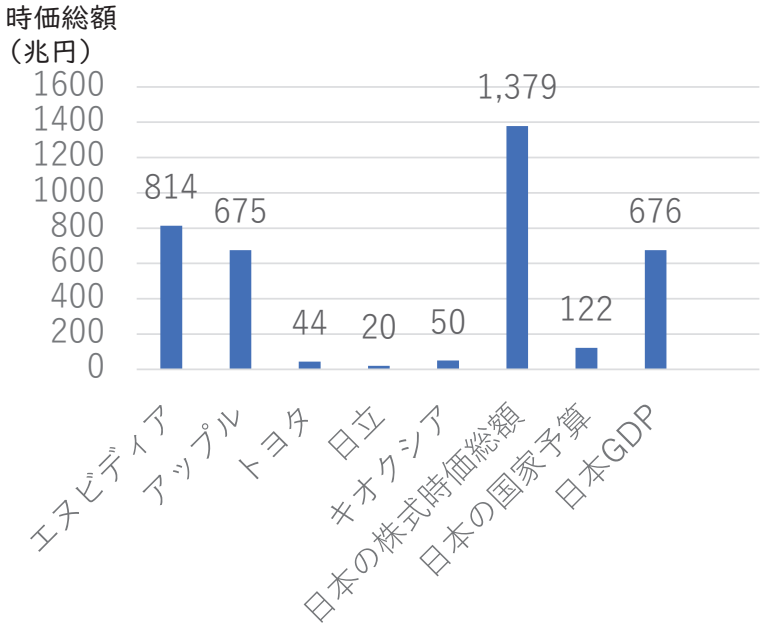
例：
・Bain Capitalによる（現）田辺ファーマの買収：約33億ドル
・Warren Buffettによる日本の総合商社への大型投資（伊藤忠、三菱商事、東京海上など）
・イーライリリーによる次世代バイオ企業の大型買収が加速
例：Ajax 約23億ドル、Kelonia 約70億ドル

03

日本のグローバル資金調達力の課題

- 多くの未上場企業・中堅企業は国際資本市場へのアクセスが限定的
- 高品質な技術や事業資産が十分な資金供給を受けられず埋もれている

時価総額における
バリュエーションギャップ



※ 各社公表時価総額をもとに概算（参考値） 2026年6月26日時点
※日本の株式時価総額の6月26日時点値は、JPX公表の2026年5月末時価総額をTOPIX終値の変化率で調整した概算値。
※1ドル＝162円で換算

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

グローバル評価・海外投資家を呼び込むUSチーム

世界で実績を持つ創薬・事業開発の専門家が、投資プラットフォームの競争力を支えています。

Neil Gibson, Ph.D.

がん治療領域で4つのブロックバスター治療薬を創製したレジェンド

30 年以上にわたり、がん治療領域を中心に画期的な医薬品の研究開発を牽引してきたヘルスケア業界のレジェンドです。テモゾロミド、ソラフェニブ、エルロチニブ、クリゾチニブなど複数のブロックバスター医薬品の研究・開発・商業化を主導、世界中の多くの患者の治療結果の向上に貢献してきました。
Pfizer Oncology の Chief Scientific Officer をはじめ、世界的な製薬企業、及び、バイオベンチャー企業でCEO/CSO を歴任して成長と成功を主導してきた経営者でもありますので、ヘルスケア業界のエグゼクティブ、及び、投資家の双方に広範なネットワークを有しています

創薬評価　技術評価　グローバル

Michael Houston, Ph.D.

創薬とCDMO領域で卓越した成果を牽引するバイオテクノロジーの革新者

ペプチド、タンパク質、siRNA、mRNAなど最先端モダリティの創薬で卓越した実績を誇る科学者。革新的APIやデリバリーフォーミュレーションを、コンセプト設計から研究、臨床開発まで一貫して主導。Trilink Biotechnologiesでのリーダー職を経て、Artis Biosolutionsを創業しCSOとして事業を牽引。多様な専門家チームを構築・統率し、治療薬開発と製造の未来を切り拓く科学的リーダーです

開発実装　CDMO　製造

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

日本政府の創薬成長戦略が生み出す投資機会

日本政府は創薬・先端医療を重点成長分野と位置付け、研究開発支援や資金供給を強化しています。

出典：内閣府（健康医療）・経産省「戦略17分野」

世界の医薬品市場 約 **200兆円**（2022年） ファースト・ベストインクラス特許品 年平均 **9.6%** 拡大

政府の戦略（創薬・先端医療分野）	
1	**ファーストインクラス・ベストインクラス製品** 新たな創薬シーズ～実用化まで一気通貫
2	**バイオ医薬品・再生医療等製品** iPS細胞・抗体薬物複合体の技術基盤を活用
3	**感染症対応製品** ワクチン・抗菌薬等の安定供給体制を整備
4	**革新的デバイス・先端医療** AI・ロボティクス活用の先端医療技術開発

医薬品産業強化総合戦略
厚生労働省

日本の優れた創薬技術の世界直行型開発を支援。
魅力ある研究開発・規制・事業環境の整備により、日本発の創薬産業拠点の創出を加速

創薬ベンチャーエコシステム強化事業
AMED

認定VCのハンズオン支援を要件に補助金を提供。
非臨床～臨床段階の創薬ベンチャーを支援し、海外市場での事業化を積極支援

創薬力向上関連資料
内閣官房

国内外から人材・資金・シーズを呼び込む方向性。
日本を世界に肩を並べる『創薬の地』とし、グローバル資本を呼び込む

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

日本発創薬イノベーションは世界で大きな価値を創出できる

世界で成功した事例は、日本の技術がグローバル市場で高く評価されることを示しています。

山中因子 / NewLimit

■ **日本発技術**
山中博士（現CiRA名誉所長）によるノーベル賞受賞研究

■ **海外での評価**
米国企業NewLimitの累計調達額は**約1,000億円**
評価額は**約5,000億円**に到達

■ **示唆**
日本の科学が米国で価値創出した代表例

間野博士 EML4-ALK / ザーコリ

■ **日本発技術**
間野博士（現国立がん研究センター理事長）による重要な科学的発見

■ **海外での評価**
Pfizerが最初に治療薬を開発・製品化し商業価値へ転換、ピーク売上**約1,000億円**。ALK阻害薬市場全体では**3,000億円超**に成長

■ **示唆**
発見と価値創出は別。誰がどこで育てるかで創出価値が決まる

本庶教授 PD-1 / オプジーボ

■ **日本発技術**
本庶教授によるノーベル賞受賞研究

■ **海外での評価**
世界的な重要医薬品へ成長、年間売上**約1.6兆円**の大きな商業価値を創出

■ **示唆**
日本の科学は世界標準治療を生み得る

第一三共のADCプラットフォーム

■ **日本発技術**
日本企業が構築した世界水準の創薬技術

■ **海外での評価**
グローバルで高く評価される腫瘍領域プラットフォーム。
アストラゼネカ契約総額は合算で最大**約2兆円**、メルク契約総額最大**約3.5兆円**

■ **示唆**
日本企業でも世界的競争力のある創薬基盤を構築可能

注: $1＝￥160 で換算

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

事業モデルおよび競争優位性

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

日本の優れた技術をグローバル成長へ接続するGatewayモデル

日本の技術と世界の資本をつなぐ投資プラットフォームです。

案件創出・事業アセット発掘

日本

SBIグループとの協業
•国内上場・未公開企業の案件創出
•Nano Bridge Investmentとの共同ファンドによる投資実行支援

経験豊富なメンバーが持つ国内製薬・大企業ネットワーク
•カーブアウト案件
•ノンコア資産発掘

政府の成長戦略との連携
•AMED等の補助金獲得
•適格機関投資家としてファンド運営
•海外VCとの共同投資

NANO HOLDINGS

Gateway

**日本の優れた技術・事業資産を
グローバル資本・事業開発・EXIT
へ接続し
企業価値向上を実現**

VC・IPO・M&A・海外資金調達

米国

Nano Holdings US
米国VC・投資家ネットワーク
•米国VCへのアクセスによる海外資金の獲得
•EXIT機会創出

USバイオ・製薬ネットワーク
•Global Pharmaへのアクセス
•グローバル技術評価
•グローバル事業開発設計

ライセンス・治験・事業展開

中国

Norwich Capital との協業
•中国企業とのライセンスOut /ライセンスIn
•中国治験への展開を加速
•EXIT機会創出

日本の技術を世界で戦える価値に成長させる

投資からValue Up、EXITまで一貫して企業価値向上を実行します。

NANOグループの価値創出フロー

案件発掘
- SBIおよび独自のネットワークを活用
- 有望な技術・事業資産を発掘

投資実行
- HDが買収
- NBIを通じた投資実行
- 共同投資（Co-Investment）

Value up

世界で戦える企業価値の創出

EXIT（収益化）
- IPO / M&A
- 株式売却
- ライセンス収益
- プラットフォーム収益 等

収益の獲得と再投資

獲得した収益を再投資
更なる成長サイクルへ

投資対象の価値創出フロー

潜在価値を有する技術・資産
- 資金不足
- 開発力・ネットワークが限定的
- 企業価値が十分に評価されない

NANOグループによるValue up

出資
海外資金・共同投資を活用し、成長投資・研究開発を加速

グローバル開発
海外臨床・規制対応を推進し、グローバル市場展開を加速

事業開発/M&A
グローバル事業開発やM&Aを通じ、事業基盤・競争力を強化

パイプライン強化
外部技術・パイプライン組み入れにより、開発価値・収益機会を拡大

世界で戦える企業価値の創出

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

事業の状況

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

NANOグループの投資対象

海外投資家や製薬企業が評価する技術・パイプライン・事業資産を投資対象としています。

01

日本の未公開企業

日本には世界水準の技術力を持つ企業が多数存在

米国・グローバル市場と比較して企業価値が低く評価される傾向

技術力と市場評価の間に大きなバリュエーションギャップが存在

02

製薬パイプライン

製薬企業の研究開発戦略見直しにより有望パイプラインの外部化が進展

中堅製薬企業は国内開発能力はあるが、グローバル治験資金が不足

↓

VCや海外バイオ投資家との提携ニーズが拡大

03

上場バイオベンチャー

市場環境の影響で企業価値が過小評価されている上場企業

PIPE投資などを通じた企業価値向上

04

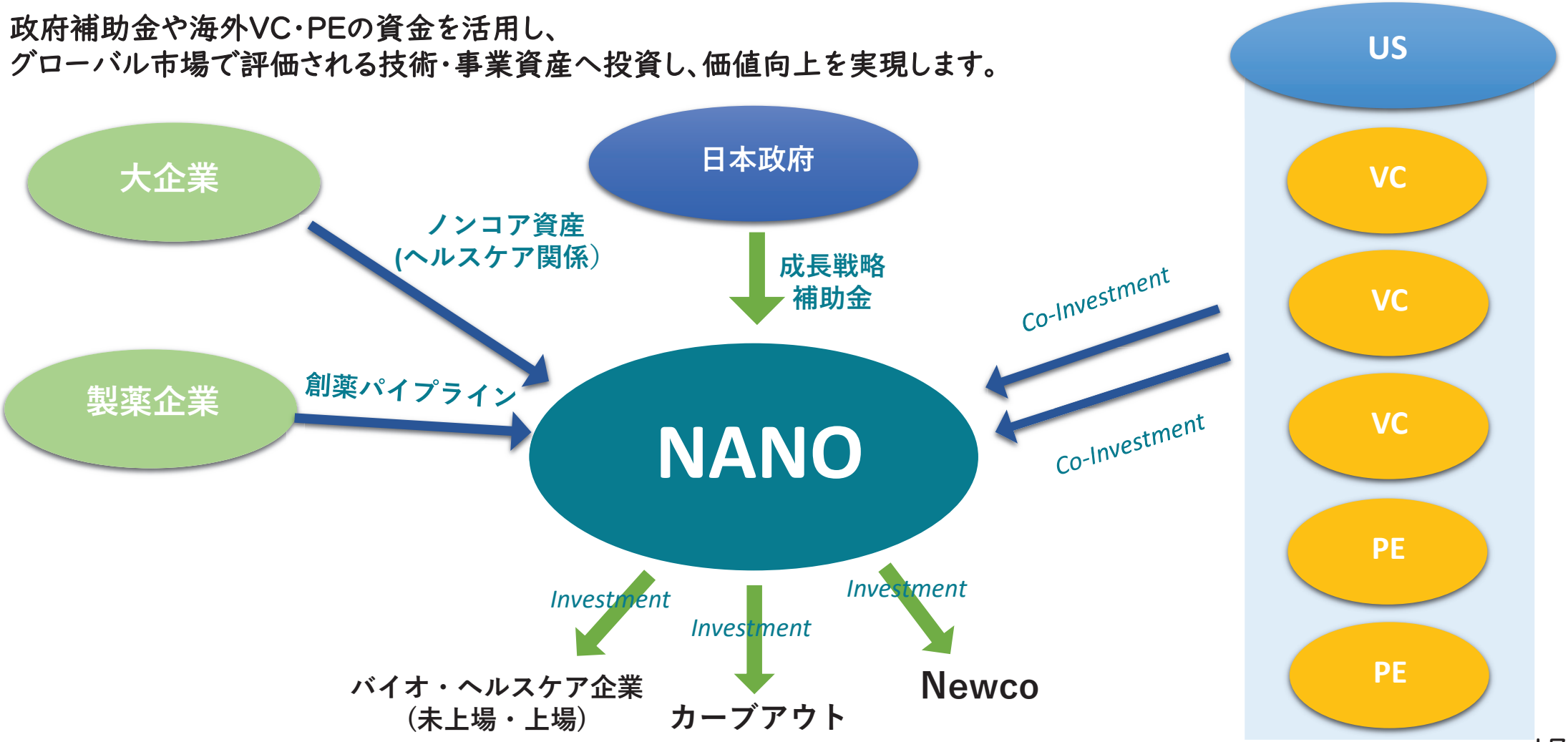
企業の事業アセット

大企業が保有する事業
・技術のグローバル展開
・カーブアウト支援

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

NANO: 日本の技術をグローバルで成長させるGateway

政府補助金や海外VC・PEの資金を活用し、
グローバル市場で評価される技術・事業資産へ投資し、価値向上を実現します。



© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

投資事業の進捗（2026年6月26日現在）

海外VCネットワークを活用し、グローバル成長が期待できる案件の発掘・精査が進んでいます。

ディールソーシング、DD進行中案件、投資実行の状況

案件（社数）

Contact: 100
（内訳）
ベンチャー　45
製薬会社　34
カーブアウト21

NDA: 35

世界視点で精査

米国VCとの連携構築
18社

投資子会社
Nano Bridge Investment株式会社

日本の優れた技術を持つ
企業の価値を世界へつなぐ
日本のバイオ・ヘルスケア企業の潜在価値を見出し、
投資を通じて世界に羽ばたく企業への成長を後押しします。

2026年2月　ファンド設立　Bio Bridge Ⅰ

戦略子会社
NANO MRNA株式会社

世界最先端の
創薬プラットフォーム
様々なモダリティの課題を解決する
新たなプラットフォーム企業です。

2026年4月　Luna RDを子会社化、LNP技術の取り込み

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

Our Team – Legendary Scientists

世界トップレベルの創薬専門家がサイエンスDDとグローバル開発戦略の策定を担い、企業価値向上を実現します。

Neil Gibson, Ph.D.
4つの承認薬を生み出した、創薬戦略の世界的なレジェンド
30年以上にわたり創薬の最前線で活躍し、オンコロジー領域で4つの承認薬を生み出した世界的なレジェンド。Pfizer Oncologyのエグゼクティブチームをはじめ製薬・バイオ業界で要職を歴任。COI PharmaceuticalsのSVPとして複数の革新的バイオ企業を創出し、AdanateやPDI TherapeuticsのCEOとして事業を牽引するなど、学術・産業界双方で創薬イノベーションを牽引しています。

Michael Houston, Ph.D.
創薬とCDMO領域で卓越した成果を牽引するバイオテクノロジーの革新者
ペプチド、タンパク質、siRNA、mRNAなど最先端モダリティの創薬で卓越した実績を誇る化学者。革新的APIやデリバリーフォーミュレーションを、コンセプト設計から研究、臨床開発まで一貫して主導。
Trilink Biotechnologiesでのリーダー職を経て、Artis Biosolutionsを創業しCSOとして事業を牽引。多様な専門家チームを構築・統率し、治療薬開発と製造の未来を切り拓く科学的リーダーです。

秋永　士朗, Ph.D.
3つの創薬モダリティの研究開発を推進した稀有な実績を持つ、次世代創薬のパイオニア
協和発酵キリンで執行役員/フェローを務め、バイオベンチャー業界に転身。抗体医薬（モガムリズマブ上市）、核酸医薬（siRNA/ASO）、mRNA医薬という3世代のモダリティで実績を持つ数少ないサイエンティスト経営者です。次世代医療の実現に向けた開発化合物およびモダリティの見極めと事業化構想を主導します。

内藤　健一郎, Ph.D.
疾患領域、研究開発ステージ不問でプロジェクトの価値を見出す目利き
240年超の歴史を持つ製薬企業で約30年創薬に携わり、そのグローバル化にも貢献。すべての研究開発ポートフォリオを俯瞰しつつ、個々のプロジェクトの戦略的分析から価値最大化の方策を立案、推進。海外拠点とは信頼関係に基づき、それぞれの長所を活かしたプロジェクト実施サイトの配置と最速な進捗を実現しました。

片岡　一則, Ph.D./創業者
科学で投資価値を高める、ナノテクノロジーの世界的権威
ナノテクノロジー分野の世界的権威として、投資先技術の科学的評価に深い知見を提供。買収企業の価値向上を支援し、産学連携とグローバルネットワークを活かして事業成長を後押しします。卓越した専門性で、次世代産業の創出に貢献する強力なアドバイザリーです。

岡野　光夫, Ph.D./創業者
再生医療の未来を支える、世界的イノベーションの架け橋
再生医療分野で細胞シート工学を確立し、臨床応用に向けた研究を世界的に牽引してきたパイオニア。投資先技術の科学的評価に深い知見を提供し、買収パイプラインの価値向上を支援します。国際的な研究ネットワークと産学連携の経験を活かし、次世代医療の創出に貢献する強力なアドバイザリーです。

中島　大輔
「全世代モダリティ」を制覇。研究・開発・承認を一気通貫で完遂する稀代のグローバル創薬戦略家
国内製薬会社にて約30年にわたり、薬物動態および臨床薬理の専門家として、低分子化合物、タンパク医薬、抗体医薬、そして核酸・mRNA医薬というモダリティ全てで実績を確立した稀有なサイエンティストです 。直近では、オーストラリアでの現地法人設立とFIH試験開始を成功させるなど 、グローバルな視点での事業立ち上げと開発加速化を実現します。

白石　紀彦, Ph.D.
科学と戦略を統合し、次世代創薬を導く実行の羅針盤
内資系製薬企業にて20年以上にわたり創薬研究、国内外臨床開発、経営企画新規事業開発のキャリアを有します。カッティングエッジなプロダクト・サービスの価値をサイエンス視点で見極めるとともに、引き続き研究部門をリードし、mRNA医薬品創薬を牽引し新たなパイプライン創製に邁進します。

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

Our Team – Investment Professionals

優れた投資リターン創出実績を持つ投資プロフェッショナルが投資先の成長を牽引します。

松村 淳
戦略的投資で企業成長を牽引する投資家・経営のエキスパート
野村證券で日本および欧州でのコーポレートファイナンスに従事したあと、ウィズ・パートナーズを創業し、過去運用したファンドは2000年代のグロースセクターにおいて世界一のパフォーマンスのトラックレコードを達成したファンドマネージャー。独自の投資手法とハンズオン戦略で投資企業の価値を高めてきました。卓越したファンド組成力と、国内外の投資家や企業経営者との強固なネットワークを有しています。

飯野 智
国内外で豊富な実績を持つファンドマネージャー
ベンチャーキャピタル（VC）およびプライベート・エクイティ（PE）業界で25年以上の経験を持ち、数々の成長企業への投資を成功に導いてきました。日立製作所での海外技術提携、CSKベンチャーキャピタルでのバイオベンチャー創業期支援、ウィズ・パートナーズでの上場企業のバリューアップなど、国内外の投資ネットワークと実績を兼ね備えています。

山口 泰範, Ph.D.
グローバル事業開発とアライアンスで価値創出を牽引
協和キリンにて研究・戦略・事業開発を歴任し、抗体医薬・細胞医療領域における国際提携および事業戦略を主導。米国子会社CEOとしてグローバル経営を統括。IPガイア代表取締役としてアカデミアおよび製薬企業ネットワークを構築し、創薬初期から導出までの事業モデルを確立。NANOホールディングスにおいては、事業開発およびアライアンスを通じて価値創出プラットフォームの構築と推進に貢献。

山中 洋信
グローバル視野の投資管理・ディールプロセス管理
投資トランザクションマネジメントを統括。医療・バイオ領域で20年以上のグローバル経験を基盤にM&Aとカーブアウトの実現プロセスを管理。Danaher本社で事業開発を推進し、Leica Microsystemsスイス本社で医療機器の企画から米欧亜ローンチまでを主導、米国ベンチャー買収・統合も含む部門再興を達成。キャリアの起点は経産省での政策立案。戦略思考と実現力で、投資価値の向上を追求します。

植坂 謙治
豊富な知識と経験で当社のファイナンス戦略をリードする
銀行での30年以上の業務経験を有し、現在はSBI新生銀行で専務執行役員としてM&Aファイナンス・プロジェクトファイナンスをはじめとしたストラクチャードファイナンスの総括責任者を務め、シニアおよびメザニン・エクイティといった様々なファイナンスを熟知しています。さらにSBI新生企業投資の代表を兼務し、ベンチャーにおけるエクイティとデット両方のファイナンスにおける多数の実績も有しています。

西村 和将
バイオ投資に精通した投資プロフェッショナル
不良債権・ベンチャー投資で18年以上の投資経験を持ち、2019年よりSBI新生企業投資の旗艦ファンドで投資委員を務め、良好なトラックレコードを有しています。グローバルの再生医療ベンチャーへの投資を行うファンドでのファンドマネジャー経験、バイオベンチャー2社の社外取締役経験を持ち、バイオ業界にも精通しています。

馬 寧
9社のIPOを携わるベンチャー投資のプロフェッショナル
投資銀行・ベンチャー投資で計15年以上の投資経験を持っています。共同ファンドやCVCのファンドマネージャーとして、ファンドの組成からクロージングまで一気通貫の経験を持ち、優れたトラックレコードを有しています。
動画コンテンツ、再生医療、半導体素材など、幅広い領域のスタートアップへの投資を通じ、9社のIPOと数多くのM&A案件を主導しました。

小坂 真
ベンチャー企業と利害関係者との円滑なコミュニケーションに貢献
金融機関、監査法人、コンサルティング会社において内部管理、リスク管理分野の実務・コンサルティングに25年間従事したのち、技術系ベンチャーの取締CFO/COO、さらにカーブアウト企業の内部監査室部長としてガバナンス・内部管理体制の構築、上場審査対応経験も有しています。国際公認投資アナリスト（CIIA）、公認内部監査人（CIA）、認定上級IPOプロフェッショナル（AIP）。

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

Our Team – Management Professionals

国内外の経営・投資ネットワークを活用し、投資先の事業成長と企業価値向上を実現します。

富所 伸広
投資先企業のバリューアップとカーブアウト戦略を推進
日東電工で代表取締役専務を務め、ディスプレイ材料事業を数億円規模から数千億円規模の主力事業へと成長させた立役者です。業界の成熟期にも、技術革新・構造改革・サプライチェーンとの協業などを通じて、高収益を維持する戦略的経営を実践してきました。今もなおグローバルなネットワークを有し、加えて、創薬CRO「アクセリード」の元CEOとしても製薬業界にも精通しています。

金子 好久
経営基盤と資本戦略を熟知した、企業成長の総合プロフェッショナル
大和証券でコーポレートファイナンス部や法人部門にて企業の投資銀行業務に長年従事し、専務取締役として事業法人部門、IPO部門を統括後、大和ファンドコンサルティング社長としてアセットマネジメント業界に深く携わっています。さらに、広報、IR、総務、秘書、メンタルヘルスサポートなどコーポレート部門の知見も有しています。

Rocky H. Kato
30年超の実績で成長と革新を推進
Nano Holdings USで米国事業の拡大とポートフォリオ企業の成長加速を牽引。ヘルスケア、テクノロジー、環境分野で30年以上にわたり成功を収めてきた経験豊富なリーダーです。日立製作所では、ロンドン、サンフランシスコ、東京を拠点にグローバル事業開発とベンチャー投資を推進し、15年以上にわたり高い投資リターンを実現しました。CEOおよびCOOとして複数のベンチャーをIPOやM&Aに導いた実績を持ちます。キャリア初期にはプロのフォーミュラレーサーとして国際的に活躍し、その精密さと推進力は現在のビジネスリーダーシップにも反映されています。

江尻 隆
金融・企業法務の知見で、攻めと守りを統合する
日本最大の法律事務所である西村あさひ法律事務所の創業者の一人として、50年間にわたり弁護士業務に従事し、特に金融法務と企業法務の分野で豊富な経験を積んできました。今回のメンバーとは、この20年間にわたり様々な形で協働してきた実績があります。今後はコンプライアンスとガバナンスに細心の注意を払いながら、企業成長に向けて積極的にアクセルを踏む役割を担います。

片山 龍太郎
経営者、投資家として企業の成長と再生に精通
日本企業や複数の外資系企業を経営し、多くの実績を挙げています。産業再生機構執行役員MDとして、当時史上最大の再生案件を成功させるなど、同機構全体利益の過半を獲得しました。再生企業や成長企業の社外取締役や顧問を多数務め、高い評価を得ています。ウィズ・パートナーズの創業にも参画しました。累計100件を超えるM&Aに関与した実績を持ち、各界に広いネットワークを有しています。ハーバード大学MBA。

中冨 一郎, Ph.D.
広範なネットワークと経験で、当社の成長戦略を支える
米国NASDAQと東証マザーズでのIPO経験を持つ創業者。企業理念の浸透と投資判断において、投資家視点と経営者視点を兼ね備えたリーダー。製薬業界のトップとの強力なネットワークを活かし、当社および投資先企業の事業成長と企業価値向上に貢献します。また、国際ライセンス協会（LESI）会長として、グローバルな知財ネットワークと事業開発経験を有しています。

Gilad Gat
グローバル投資と経営に精通したディールメイキングのプロフェッショナル
投資・経営・銀行業務で30年の経験を持ち、PE・VCファンドと連携し米国、日本、スペイン、イスラエルでエネルギー、ヘルスサイエンス、ハイテクなど幅広い分野の大型取引を主導。複数の企業で管理職を歴任し、成長戦略やM&Aを成功に導いてきました。現在はEnlight Holdings取締役、Sightline Systems会長、HeartBay Advisorsマネージングディレクターを務めています。ヘブライ大学MBA（国際金融・情報システム）、経済学学士。

Jason Wong
“Asia's SPAC Godfather” — アジアにおけるSPACスポンサーシップの先駆者
アジアおよび米国の資本市場において約30年の経験を有しており、2014年以降、米国上場SPACの立ち上げに10件以上関与しています。そのうち複数はDe-SPAC取引を成功裏に完了しており、現在もSPACスポンサーおよびクロスボーダー上場案件に積極的に関与しています。また、香港初期のSPAC立ち上げにも参画しています。現在はCulturecom Holdings（00343.HK）の会長を務めるほか、IFAPCのSPAC委員会会長、AICPAおよびHKICPAの会員です。

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

子会社の状況

- ファンド事業
- 創薬事業

当社は投資会社として、創薬事業などを有する子会社への投資・Value Upを推進しています。

NANO HOLDINGS

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

子会社の事業の状況： ファンド事業 NBI

NBIは、ファンド運営を通じて日本の技術・事業資産への投資を行う、投資事業の中核を担う子会社です。

Nano Bridge Investment株式会社（NBI）

日本の優れた技術を持つ企業の価値を世界へつなぐ

Nano Bridge Investmentは、日本のバイオ・ヘルスケア企業の潜在価値を見出し、
投資を通じて世界に羽ばたく企業への成長を後押しします。

創薬・ヘルスケア領域に特化したファンド運営事業

■ ファンド名

NBI-SBISCIファンド1号
投資事業有限責任組合
（Bio Bridge I）

NANOホールディングスが出資

■ ファンド・ストラクチャー

SBIグループとの連携ファンド、共同GP体制

Nano Bridge Investment × SBI新生企業投資

共同GP

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

1号ファンド「Bio Bridge I」の投資戦略

3つの投資戦略を組み合わせ、ポートフォリオ全体でリターン創出を目指します。

組成日
2026年1月30日

運用期間
2026年1月30日～2032年12月31日

ファンド規模	投資件数
100～150億円	8～11件

投資資金
100～150億円

未公開企業
（厳選ポートフォリオ）

Later-stage / Strategic Build-up
M&A Exit（約3年）
成功時：~5.0x

製薬パイプライン
（NewCo 出資モデル）

Out-license / M&A（約3年）
Base：約2.3x / Upside：~15x

上場バイオベンチャー
（CB+ワラント）

ディスカウント投資+オプション
売却 / 償還（約3年）
期待：~3.0x（失敗時下支え）

3戦略を並列運用 → ポートフォリオとしてリターン創出

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

子会社の事業の状況： 創薬事業 NANO MRNA

プラットフォーム技術を通じて多くのアライアンスを組むことで企業価値を向上し、
将来的なEXITを目指す戦略子会社です。

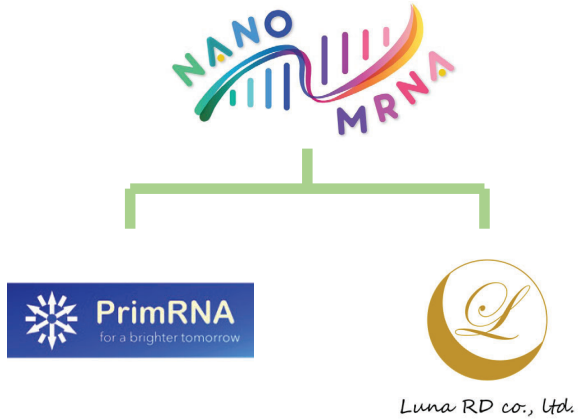
NANO MRNA株式会社

世界最先端の創薬プラットフォーム

様々なモダリティの課題を解決する新たなプラットフォーム企業です。

TOPICS
2026年4月 Luna RDを子会社化

特許化された日本発の新しいLNP（DDS）技術を獲得



In vivo Car-T/mRNA 抗体医薬/ゲノム編集などの新規モダリティと融合しパイプラインの創出

製薬企業などと多くのアライアンスを組み、企業価値を向上

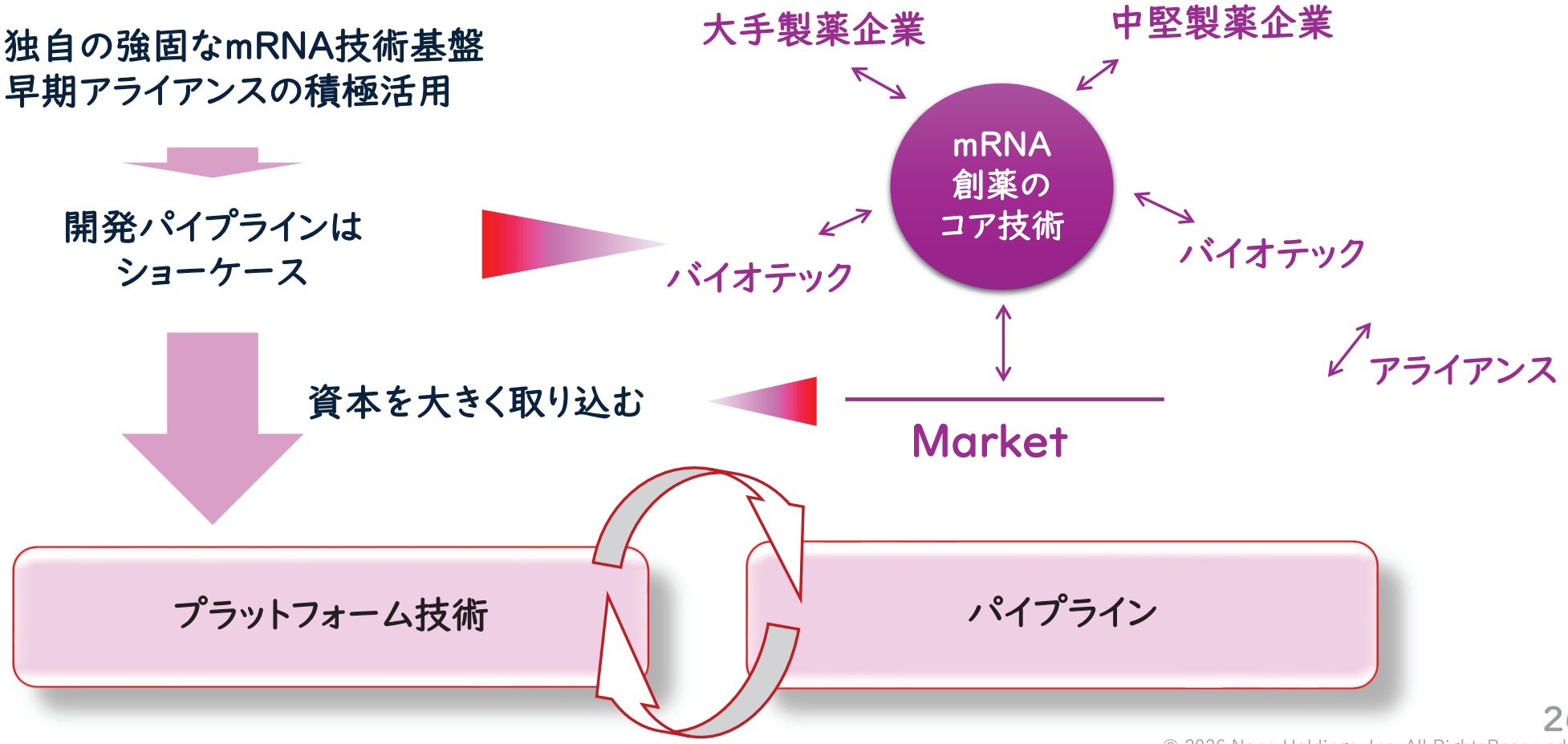
ショーケース

開発品目	対象疾患	Phase	パートナー
RUNX1 mRNA	変形性膝関節症	Phase I（豪）	名古屋大学
TUG1 ASO	膠芽腫	Phase I（日）	東京科学大学

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

パイプラインの開発を起点に成長する創薬プラットフォーム企業

NANO MRNAは、パイプライン開発をショーケースとし、提携・資金・新規案件を呼び込む成長モデルです。



© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

2026年3月期通期決算概要
事業計画および継続開示方針

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

2026年3月期 連結損益計算書

（単位：百万円）	2025年3月期 実績（連結）	2026年3月期 見込（連結）A	2026年3月期 実績（連結）B	増減 （B-A）
売上高	108	156	174	18
売上原価、販売費及び一般管理費	863	1,216	1,119	△ 97
内：研究開発費	422	640	487	△ 153
営業損失	△ 755	△ 1,060	△ 965	95
営業外損益（ネット）	67	58	99	41
経常損失	△ 687	△ 1,002	△ 866	136
当期純損失	△ 835	△ 1,061	△ 943	118

売上高要因

化粧品材料供給およびコムレクスの販売に伴う利益分配収入

2026年3月期 連結貸借対照表

（単位：百万円）	2025年3月31日	2026年3月31日	増減
現預金、運用債券（手元流動性）	3,505	4,910	1,405
その他流動資産	115	288	173
固定資産	375	707	332
資産合計	3,996	5,906	1,910
転換社債型新株予約権付社債	540	—	△ 540
社債	—	1,600	1,600
その他負債	716	740	24
負債合計	1,257	2,340	1,083
資本金及び資本剰余金	5,713	7,338	1,625
利益剰余金	△ 2,986	△ 3,930	△ 944
その他有価証券評価差額	△ 2	130	132
新株予約権	15	27	12

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

2026年3月期 連結キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）	2025年3月期 実績（連結）	2026年3月期 実績（連結）	増減
連結営業キャッシュフロー	△ 401	△ 816	△415
連結投資キャッシュフロー	587	2,261	1,674
連結財務キャッシュフロー	△ 568	2,222	2,790
換算差額	4	45	41
期首残高	1,575	1,197	△378
期末残高	1,197	4,910	3,713

＜キャッシュフロー概況＞
営業キャッシュフロー：当期純損失等によるもの
投資活動キャッシュフロー：定期預金の払い戻し、有価証券の償還等によるもの
財務活動キャッシュフロー：社債発行、新株予約権の行使による収入等によるもの

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

過去の資金調達の充当・消却状況

第5回CBは全額充当済み、第6回CBおよび第20回・第21回新株予約権は全て消却済みです。

資金調達	調達額	使途	充当額	使用期間
第5回無担保転換社債型新株予約権付社債	1,150百万円	・mRNA医薬品開発の推進	362百万円	2023年2月～2024年12月
		・TUG1医薬の治験・導出活動費用	220百万円	
		・第6回無担保転換社債型新株予約権付社債の一部繰上償還費	568百万円	
第6回無担保転換社債型新株予約権付社債	0円	・mRNA医薬品開発の推進 ・TUG1医薬の治験・導出活動費用	2025年9月 全て消却済み	2023年2月～2025年12月
第20回新株予約権	0円	・mRNA医薬品開発の推進 ・TUG1医薬の治験・導出活動費用 ・革新的mRNA技術獲得及びM＆A	2025年9月 全て消却済み	2023年2月～2025年12月
第21回新株予約権	0円	・mRNA医薬品開発の推進	2025年9月 全て消却済み	2024年6月～2028年6月

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

投資事業基盤構築のための資金調達

現在実施中の第22回新株予約権により、投資事業基盤構築およびファンド出資に必要な資金を調達しています。

SBI証券・SBI新生企業投資との業務提携を通じた投資事業基盤構築

➢ 第22回新株予約権

予約権数	:	370,000 個
潜在株式数	:	普通株式 37,000,000 株
行使価額	:	当初行使価格　172 円 下限行使価格　94 円
現在までの調達額 (2026年5月31日まで)	:	発行分　6,839,650円 行使分　1,368百万円 ※全て行使された場合の差し引き手取り概算額 6,368百万円)
割当先	:	株式会社SBI証券
行使期間	:	2025年10月30日　～　2027年11月1日
資金使途	:	投資事業基盤構築 ファンドへの出資

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

2027年3月期事業計画および継続開示方針

当社は、投資案件の実行時期・規模・EXIT時期等により業績変動が大きい事業特性を有していることから、現時点では**合理的な中期数値計画の算定が困難**と判断しております。

一方で、株主・投資家の皆様に事業進捗と成長可能性をご理解いただくため、以下の事項について**継続的な開示**を行ってまいります。

継続的に開示する主要項目

投資実行状況	ファンド進捗	Value Up進捗	財務・資本基盤
投資案件の状況 M&Aの進捗状況	ファンド設立・運用状況 海外VC・投資家との連携	子会社の状況 事業開発・M&Aの連携 パイプライン強化の状況	資金調達の状況 資金使途の進捗 財務基盤の状況 資本戦略の進捗

投資実行・企業価値向上・収益化の進捗を継続的に開示し、
長期的な企業価値向上を目指します。

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

事業のリスク

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

中長期にわたる影響度の高い主なリスクへの対応策

主なリスク		対応策
投資案件 に関するリスク	研究開発遅延、事業計画未達、資金調達環境悪化等により投資回収が遅延する可能性	• 投資案件の分散 • 技術DD（デューデリジェンス）強化 • 外部専門家との連携 • 投資後の経営支援実施
ファンド組成・資金調達に関するリスク	ファンド募集の進捗や市場環境の変化等により、投資活動に必要な資金が確保できない可能性	• 国内外VC・機関投資家ネットワーク強化 • SBIグループ等との連携強化 • 共同投資スキームの活用 • 多様な資金調達手段の確保
グローバル展開 に関するリスク	法規制、地政学、為替、市場環境の変化により海外戦略へ影響が生じる可能性	• 米国・中国等への複数地域ネットワーク構築 • 現地パートナーとの連携強化 • 継続的な情報収集およびリスク管理体制強化
投資先企業価値向上・組織運営 に関するリスク	市場環境変化、人材確保、内部統制上の課題等によりValue Upが計画通り進まない可能性	• 国内外VC・製薬企業・専門家ネットワーク強化 • グローバル人材採用および組織体制整備 • 内部統制・コンプライアンス強化 • 透明性ある情報開示推進

※ その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved

今後も投資案件進捗、提携、投資実行状況等について適時開示を継続し、事業計画及び成長可能性に関する事項についても6月にアップデートを行ってまいります。

本資料には、当社の事業及び展望に関する将来見通しが含まれておりますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している予想とは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

NANOホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部 03-6432-0020

© 2026 Nano Holdings, Inc. All RightsReserved